

第1回 秋田市地球温暖化対策実行計画策定等協議会議事要旨

1 開催の日時：平成27年6月10日（水） 13：30～15：00

2 開催の場所：秋田市環境部庁舎大会議室

3 委員の定数：15人

4 出席委員：14人

5 議 事

(1) 秋田市地球温暖化対策実行計画について

ア 計画の概要

イ 国および秋田市の現状

ウ 計画見直しの主な論点

エ 見直しのスケジュール

(2) その他

6 議事

(1) 秋田市地球温暖化対策実行計画について

ア 計画の概要

委員	東日本大震災の原発事故があり、災害が続いたということもあり、6月2日の閣議決定で2030年に2013年比で26%削減という目標が出された。 これまでは、秋田市は京都議定書に沿って、1990年度を基準として、目標を短期、中期、長期と出していたという現状だったと思う。
事務局	そのとおりである。

イ 国および秋田市の現状

委員	市民意識調査の対象はどのような抽出方法で実施したのか。設問が難しかったのではないか。また、回答率や回答者の年齢別内訳などから市民、若者層の環境への意識の低下が感じられるため、普及啓発が必要ではないかと考える。
事務局	アンケートの対象は、18歳以上で地域ごとの無作為抽出でおこなっ

た。

- 委員 無関心層への普及啓発運動は今後重要になってくると思う。
- 事務局 市民への普及啓発活動は重要だと認識している。今回、見直しをする秋田市地球温暖化実行計画の中には、普及啓発活動の内容も盛り込んでいきたいと考えている。
- 委員 環境問題は、市民、行政、事業者の三者連携が必要になるが、環境団体はどこに所属するのか。
- 事務局 本市と協力しておこなう活動に関しては行政、団体で活動を実施する場合は事業者に分類される。
- 委員 環境団体は、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づいて設立された団体である。設立の趣旨の中には、市域での地方公共団体の実行計画の達成のため協力することと示されており、今後も協力できるよう活動していこうと考えている。

ウ 計画見直しの主な論点

- 委員 削減目標を設定するのは、非石油系と石油系は含まれるのか。
- 事務局 原単位の計算によるため、全て含まれる。
- 委員 純排出量は総排出量から森林吸収量を引いた値となっているが、目標値を決定する際にはどうするのか。
- 事務局 協議会の中で検討していきたい。市民にわかりやすい形で示したい。
- 委員 森林管理の観点から、再生可能エネルギーに期待したい。域内でエネルギーが循環できる仕組みができればいいと考える。
- 委員 国の新たな目標は2030年に2013年比で-26%と策定されたが、2013年の推計値もまだ公表されていないためわかりづらいので、わかりやすい形で示したほうがよいのではないかと考える。また、気候変動を考慮した形で、将来推計に反映できたらいいと思う。
- 委員 気候変動による災害リスクを想定している自治体もある。現在、気候

変動による温暖化現象について研究されていることから、将来的には必要になってくるのではないかと。

エ 計画見直しの主な論点

委員 見直しをする際には、現行計画の検証をし、新しい実行計画に必要な現実的な取組を盛り込んでほしい。検証をするにはたくさんの時間がかかると思うが、お願いしたい。

事務局 次回開催時には、お示しできるよう取りまとめていく。

委員 検証をする際には、SWOT分析などを活用して検討してほしい。

事務局 検証には多くの時間がかかるため、次回開催時には、可能な限りまとめた内容で示したいと考えているが、11月には見直しの素案をお示しできるようなスケジュールで進めていく。